

〈静岡県選挙関係史料紹介1〉

石橋湛山の昭和28年総選挙支出

前山亮吉

【資料】

〈静岡県選挙関係史料紹介1〉

石橋湛山の昭和28年総選挙支出

前山亮吉

1. 本稿の目的
2. 史料解題
3. 史料覆刻

1. 本稿の目的

選挙は、政治の実態分析に欠かせない存在であることは言うまでもない。しかし肝心な選挙戦の実態については、その性質上記録に残されることが多く、当事者の証言も断片的であることの方が普通であり、系統的な分析の俎上に上ることが少ない。政治史の領域では、幸運にして残った歴史史料をもとにした分析が、わずかに行われている^①。また政治家自身が残した希少な選挙回想録をもとに、筆者自身も分析を試みた^②。

本稿はこうした研究の延長上として、本学の所在地である静岡県をフィールドとした国政選挙の実態を分析する上で、重要な価値のある文書につき、随時覆刻紹介するものである。時期としては第二次世界大戦後の「戦後政治」の時期から「五十五年体制」期を対象とする。その理由はこの時期は歴史史料・研究の蓄積が進み、十分に政治史分析に耐え、且つ現在との比較に適するからである。その証拠に国立国会図書館憲政資料室には、この時期の政治家の私文書が豊富に所蔵され、順次公開されている。

静岡県選出の政治家としては石橋湛山（旧静岡2区）・竹本孫一（旧静岡3区）の史料が質量ともに豊富である。まずは第一回目として、首相経験のある石橋湛山の総選挙支出費用に関する文書を紹介したい。こうした具体的な史料紹介の蓄積が、「保守王国」とのみ語られること多く、学問的な分析が加えられることが希な第二次世界大戦後の静岡県政治史の分析の足掛かりとなれば幸いである³⁰。

註

- (1) 例えば、上山和雄『陣笠代議士の研究 日記にみる日本型政治家の源流』（一九八九年、日本経済評論社）及び季武嘉也『選挙違反の歴史』（二〇〇七年、吉川弘文館）は実態を史料で活写した貴重な研究である。
- (2) 前山亮吉「小会派政治家の選挙・政党観 花井卓蔵と田川大吉郎」（松田宏一郎・五百旗頭薫編『自由主義の政治家と政治思想』所収、二〇一四年、中央公論新社）。
- (3) 栗田直樹『昭和期地方政治家研究 静岡県政史断章』（二〇〇五年、成文堂）は貴重な先行研究である。また河井重蔵・弥八研究会編『河井弥八日記 河井弥八手帳 一九五二年』（静岡県立大学大学院国際関係学研究所ワーキングペーパー #14-01、二〇一四年）には昭和27年5月参議院静岡選挙区補欠選挙における、石黒忠篤（緑風会、当選）の選挙戦に関する詳細な記録が見られる（45～62頁）。

2. 史料解題

ア. 史料について

ここで紹介する史料は国立国会図書館憲政資料室所蔵「石橋湛山関係文書」文書番号609の「選挙事務所支出記録 昭和28年4月総選挙」であり、マイクロフィルムの形式で閲覧に供されている（リール21、301～318コマ）。原文書はノートに書きで記された体裁であり、25ページにわたっている。作成者はノートの表紙にある次の名刺から醍醐新一郎秘書と推定できる³¹。

・（ノート表紙の名刺）欧米局長 千葉 皓 外務省

醍醐君から先生に渡して貰いたいとて預かったノートです、ご一覧願います、尚同君の件何分宜しく願います

石橋先生

なおこの名刺が書かれた経緯については不明であるが、こういう形で醍醐秘書が作成した本文書が石橋本人の下に渡り、保存

されていたことがわかる。最後に資料の作成時期であるが、史料冒頭の説明文の最後に、公選法違反の時効（昭和25年制定の公選法25条、法定選挙費用違反は2年）成立を機に作成した旨記されていることから、昭和30年4月19日以降と考えられる。

イ・史料の背景について

この資料が物語る昭和28年4月の総選挙（公示3月24日、投開票4月19日）は、いわゆる「バカヤロー解散」の結果生じた事態であることは余りにも著名である。当時の石橋湛山の立場は、吉田自由党から分裂した鳩山自由党（通称「鳩自」）の重鎮（政策委員長）であった。しかるに突発的な解散と選挙戦への突入であったがゆえに、「鳩自」は十分な選挙準備を整えることなく、それは石橋も同じであった。当時の状況につき石橋は解散翌日の日記に次のように記している。

・八時ホテルを出で、三木武吉氏訪、全氏大に張り切る。これにて私も大に勇気づけらる。悲観を一掃、邁進に決意（3月15日）⁽²⁰⁾

邁進した鳩自ではあるが、総選挙の結果は35名の当選にとどまり、石橋の成績も次に見るように3位当選であり、前年10月の選挙（2位当選）と比して約5千票減らす結果となった。

・静岡2区当選者

| | | | |
|---|-------|-----------|-----|
| 当 | 勝間田清一 | 5 9 1 3 1 | 左社現 |
| 当 | 久保田 豊 | 5 2 3 4 8 | 労農新 |
| 当 | 石橋 湛山 | 5 0 8 4 5 | 鳩自現 |
| 当 | 遠藤 三郎 | 4 6 0 7 9 | 吉自現 |
| 当 | 山田 弥一 | 4 3 9 8 0 | 吉自現 |

ウ・史料の内容に関する若干の考察

石橋にとって緊張感ある選挙はいかなる費用を要したか。本史料はそれを雄弁に物語る。当時の大卒初任給が5千円台であったことに鑑みても、1日に費やす選挙費用は極めて多い。そればかりでなく本史料は、公刊されている『石橋湛山日記』を補完する意義を有する。そもそも日記では4月1日から17日までの記述は欠落しており、わずかに残る記述も以下のように素っ気ない内容である⁽²¹⁾。

- ・トラックにて熱海、伊東、修善寺、長岡、三島、沼津。夜演説沼津および三島、沼津泊（3月27日）
- ・富士郡方面トラック（3月28日）
- ・駿東郡方面トラック（3月29日）

かかる無味乾燥な石橋の記録の行間を本史料は埋めている。例えば「トラック隊」には学生が動員され、かなりの人件費・設備費・修繕費等を要している。それに加えて石橋自身が鳩山自由党の重鎮である関係上、選挙区を空ける事が多かった事情に鑑み、応援弁士の役割も大きかった。組織力のない鳩山には中央から応援弁士を派遣する余裕はなく、そのほとんどが石橋と懇意な地元の関係者と見られる。例えば、4月9日に登場する「緒方弁士」は緒方浩弁護士と推定できる⁽⁴⁾。弁士に関わる旅費・宿泊費等は活動費の中核を占めている。さらに新聞記者との懇談による情報交換も重要な機会であった。4月14日に接待されている「八尋、宮崎、奥谷記者」は石橋の日記に頻繁に登場する八尋正也東京新聞記者・宮崎吉政読売新聞記者・奥谷悟郎西日本新聞記者であり、選挙情勢に関する重要な情報を石橋に提供していたものと見られる⁽⁵⁾。

しかも興味深いことは、末尾に作成者と考えられる醍醐秘書の「私見」が添えられ（39頁参照）、そこには石橋の選挙活動費が「大物」にふさわしくなく、「陣笠代議士」レベルであると評している。これは石橋の選挙活動の本質を言い当てている可能性がある。先に挙げた日記の乾いた記述に象徴されるように、石橋はやや醒めたスタンスで、自らの選挙活動に取り組んでいる印象がある⁽⁶⁾。結果として石橋の得票は概ね五万票台にとどまり、昭和38年総選挙で落選の憂き目を見るに至るのである⁽⁷⁾。

註

- (1) 『石橋湛山日記』上下二巻（石橋湛一・伊藤隆編、増田弘解説、二〇〇一年、みすず書房、以下「石橋日記」と表記）が本史料検討にあたり、不可欠の位置づけにある。醍醐新一郎は大陸新報記者を経て、石橋の私設秘書となり（前掲「石橋日記」上巻4頁、昭和20年1月24日の項）、昭和20～28年にかけて日記に頻出している。
- (2) 「石橋日記」下巻572頁。鳩山自由党政務委員長としての活動の詳細については、筒井清忠『石橋湛山』（一九八六年、中央公論社）219～245頁を参照。
- (3) 「石橋日記」下巻574頁。
- (4) 例えば日記昭和27年10月11日の項（欄外）には「緒方浩弁護士今夕帰京、現地情勢を聞く。一応安定、小池政恩検挙せらる」と記される（「石橋日記」下巻533頁）など石橋とは懇意であったことがうかがえる。
- (5) 例えば日記昭和27年10月10日の項には「奥谷記者本日宮島清次郎氏に面会、吉田総理に政権慾なし」等の情報もたらさ

れていた旨の記述がある（「石橋日記」下巻⁵³³頁。八尋・宮崎両記者は投開票日にも石橋を訪れている（同下巻⁵⁷⁵頁）

（6）こうした点は同時代の政治家として、同じく日記を遺した芦田均と対照的である。当時改進黨所属の芦田は京都2区の選挙選について、感想を含めた一日平均15〜20行の記録を残し、熱心に取り組んでいた（昭和28年3月26日〜4月19日の項、進藤栄一編『芦田均日記』第4巻、一九八六年、岩波書店、316〜324頁）。

（7）石橋の得票は以後次の通り推移した。

| | | |
|-------------|-------|--------|
| 昭和30年2月総選挙 | 61040 | （1位当選） |
| 昭和33年5月総選挙 | 58962 | （3位当選） |
| 昭和35年11月総選挙 | 54738 | （3位当選） |
| 昭和38年11月総選挙 | 47206 | （次点落選） |

3. 史料覆刻

（凡例）

一、明確な誤記は修正し、漢数字・反復記号等の表記は適宜改めた。

二、註記は「（前山註）」とし、原註は*で示した。

石橋湛山関係文書 609 「選挙事務所支出記録 昭和28年4月総選挙」

此の記録は、石橋先生が昭和二八年四月施行の総選挙で当選した際の、事務所における純然たる『事務上の支出』（即ち事務所費と申すべきもの）であり、その総額は「百三十四万九千八百五十一円」である。（但し此の中には東京における弁士謝礼各地区連絡事務所と等は含まれていない）。これだけあれば結構派手な、そして楽な選挙が出来るという訳である。支出の内訳を記載するに当っては、煩雑に陥るを敢て避けず、出来るかぎり、支出内容を窺い知るために『メモそのまま』にした。

此のメモは、当時、事務主任として執務した醍醐、笠原両人が作製して密存したもので、既に時効（法定選挙費超加による選挙違反に対し）となったからここに記録としたものである。*（ ）内の記載は註

支出明細表

三月二十日

紙屑籠

一三〇

ナイフ

二〇

紙

三〇

電報(賀茂へ)

四五八〇

会報送料

三〇〇

電球一ヶ

七五

スタンプ台、白墨

三四〇

運転手渡シ

一〇〇〇

小計

六四七五

三月二十一日

醍醐渡シ

一〇

スルメ

五〇

紙(美濃)

一〇〇

小計

一六〇

三月二十二日

田中渡シ(原町行旅ヒ)

四五

紙(ザラ、二千枚)

八〇〇

菓子(職人用)

二〇〇

ヒモ

二五〇

バッテリー(充電ヒ)

一〇〇

胸章(十五ヶ)

七〇〇

三月二十三日

印鑑証明

三〇

選挙名ボ証明

三〇

紙

一〇〇

胸章

六五五

紙

一六〇

紙裁断ヒ

三〇

臨時電話架設ヒ

一〇一六〇

資格証明

三〇

印鑑証明

三〇

灰皿

六〇

紙屑籠

九〇

昼食

八〇

サンダル(事ム所用)

四五〇

朱肉(印)

五五

木炭

四五〇

ガソリン

一〇〇〇

紙代

一〇一五

ツマミ(酒)

五九五

タイヤ(自動車)

六〇〇〇

鹿島渡シ(富士、伊東行旅ヒ)

八〇〇〇

小計

二〇九五

| | |
|--------------------|-------|
| 八木渡シ(寿司代) | 一二〇 |
| 菓子代 | 一三〇 |
| 醍醐より借用(田代に返すため) | 一〇〇 |
| 小計 | 二九三七〇 |
| 三月二十四日(前山註 選挙戦公示日) | |
| 静岡行旅ヒ(二人) | 四四〇 |
| 静岡昼食ヒ | 三二〇 |
| 静岡にての自動車代 | 一〇〇 |
| ローンク | 一〇〇 |
| ヒューズ(電灯用) | 一〇〇 |
| コーヒー代(三人接待) | 二〇〇 |
| 湯呑み | 四〇〇 |
| 茶 | 一〇〇 |
| 大型提灯 | 三五〇〇 |
| 印鑑 | 七六〇 |
| 医薬ヒ | 三〇〇 |
| 石灰(火鉢用) | 一四〇 |
| タバコ | 八〇 |
| 寿司(二人分) | 六〇〇 |
| 地図 | 六〇〇 |
| 勝保忠幸渡シ | 二〇〇〇 |
| 小計 | 九七四〇 |

| | |
|----------------|------|
| 三月二十五日 | |
| 鉛筆 | 四〇 |
| 夕食代 | 一〇〇〇 |
| 三島行旅ヒ(パス受領のため) | 二〇 |
| 針金、ボールド | 二〇〇 |
| 紙 | 八〇〇 |
| ノート | 一〇〇 |
| 炊事道具(自炊用) | 八〇〇 |
| 文具(墨汁、筆、画鋏) | 五六〇 |
| アメ玉 | 二〇〇 |
| パンク直シ一式(自転車) | 四〇〇 |
| ゴム消シ | 四〇 |
| 米(四升) | 六〇〇 |
| 副食ヒ | 四五〇 |
| 酒(事務所開設祝ヒ) | 一三〇〇 |
| ソバ(夜食) | 八〇〇 |
| 自動車証明用紙 | 二〇 |
| 拡声器用具(針金その他) | 二六五 |
| マツチ | 二〇 |
| 紙 | 二一〇 |
| ピン | 七五 |
| 紐 | 二〇 |
| トラック装備ヒ | 三五〇〇 |
| 食ヒ(準備用) | 三〇〇〇 |

| | | | | |
|--|----|-----------------|-------|--|
| | | 三月二十六日 | | |
| | | 電話移転料 | 一五〇〇 | |
| | | ビラ貼り人、食ヒ | 一〇〇〇 | |
| | | 紙(モゾウ) | 五〇〇〇 | |
| | | 下駄(五足) | 四五〇〇 | |
| | | 木炭 | 四四〇〇 | |
| | | 茶 | 二〇〇〇 | |
| | | ポスター貼り人夫ヒ(二人) | 六〇〇〇 | |
| | | 紙(モゾウ) | 五〇〇〇 | |
| | | 富士町行、中食ヒ | 一〇〇〇 | |
| | | 木内渡シ | 一〇〇〇 | |
| | | 鶴見渡シ | 二〇〇〇 | |
| | | 大工さん副食ヒ | 二〇〇〇 | |
| | | 菓子代 | 二〇〇〇 | |
| | | メモ | 二〇〇〇 | |
| | | 水筒(一ケ) | 四六〇〇 | |
| | | 電球 | 四〇〇〇 | |
| | | 椅子 | 三九〇〇 | |
| | | 印刷料 | 四四〇三五 | |
| | | 広告料 | 二〇〇〇〇 | |
| | | 会議所ホール借料 | 一二〇〇〇 | |
| | | 竹内、醍醐宿泊料及び旅ヒ | 一二一〇〇 | |
| | 小計 | | 一五四二〇 | |
| | | 三月二十七日 | | |
| | | 炊事用ヤカン(大) | 五五〇〇 | |
| | | 炊事用ヤカン(中) | 二二〇〇 | |
| | | ローンク | 一八〇〇 | |
| | | 会議所借料 | 一〇〇〇〇 | |
| | | 会議所心付け | 三〇〇〇 | |
| | | ソケット | 八〇〇〇 | |
| | | 石鹼 | 一六〇〇 | |
| | | 文具ヒ(鉛筆その他) | 九八〇〇 | |
| | | 酒二升(トラック交換の大工へ) | 九七〇〇 | |
| | | 酒二升(学生へ) | 九七〇〇 | |
| | 小計 | | 五四一〇 | |
| | | 三月二十八日 | | |
| | | 大高渡シ(トラック交換) | 二五二〇 | |
| | | 静岡行旅ヒ | 二〇〇〇 | |
| | | 自動車代 | 二四〇〇 | |
| | | 夕食ヒ | 一五〇〇 | |
| | | 酒と肴(トラック隊) | 六八五〇 | |
| | 小計 | | 一六四二五 | |
| | | 小計 | 四〇〇〇〇 | |
| | | 小計 | 三五〇〇〇 | |
| | | 小計 | 三〇〇〇〇 | |
| | | 小計 | 一六四二五 | |

タバコ (トラック隊)
文具ヒ

四〇〇
一六五〇
小計 五八四五

三月二十九日

鶴見へ (弁士を御殿場へ)

裾野町行、旅ヒ

渡辺渡シ (仮払)

右の内訳は左の通り (*原註)

富士行

大工、夜食

原紙

コーチスクール (前山註原文のママ)

坂本弁士旅ヒ

雑布

茶筒

伊東行

入場券

電話料

静岡行

その他

小計 三六二〇

三月三十日

候補者用の椅子

事務所用の椅子

引き幕

自動車修繕費

菓子代

注射器 (ビタミン)

封筒

モノサシ

トラック隊熱海へ

鹿島渡シ (トラック隊長)

墨汁

紙

糊

竹竿

トラック隊宿泊ヒ (八名五泊)

小計 四一六七〇

三月三十一日

茶

木炭 (二俵)

郵便代

高野渡シ

大工さん手間

二〇〇〇
八七〇〇
二〇〇〇
一〇〇〇
三六〇〇

| | | | |
|--------------------|---------|-------------------|---------|
| 花束 | 二四〇〇 | 木炭 | 四四〇 |
| 労務者日当 | 一七二五 | 板橋弁士へ(田子行船賃) | 二二〇 |
| 事務所要員(トラック隊の学生を含む) | 五二七二五 | 電球 | 八五 |
| 廿五名三月分日当 | 小計五七五八〇 | 諏訪の証明書 | 三〇 |
| | | 旅ヒ(静岡へ) | 三〇〇 |
| 四月一日 | | 旅ヒ(伊藤へ弁士付そい) | 三〇〇 |
| ハイヤー(交通) | 一八二〇 | 新聞広告料 | 一〇〇〇 |
| ハイヤー(沼タク) | 四〇〇〇〇 | | 小計 二六八五 |
| 新聞広告料 | 四〇〇〇 | 四月三日 | |
| 電話料 | 三二七七 | ハガキ | 一〇 |
| 接待ヒ | 二〇〇〇 | 鮎(弁士用) | 二〇〇 |
| 旅ヒ(富士、吉原へ) | 二〇〇 | 静浦小学校心付 | 一〇〇 |
| 封筒 | 一三五 | 茶、箸 | 三〇〇 |
| 画鋏 | 二〇〇 | 提灯送料(バスで土肥へ) | 二〇〇 |
| カップ | 一〇〇 | 宮崎弁士旅ヒ(伊東へ) | 一一二〇 |
| 紙 | 二〇〇 | 円地、田村、渡辺弁士旅ヒ | 一六八〇 |
| 注射用ビタミン | 五〇〇 | | 小計 三六一〇 |
| 画鋏 | 二〇〇 | 四月四日 | |
| | 小計五二六三二 | 大原、円地。榎本弁士旅ヒ(戸田へ) | 五一〇 |
| 四月二日 | | 弁当代(三人) | 三三〇 |
| 火箸、十能 | 一〇〇 | 紙 | 五五〇 |
| 旅ヒ(土肥町へ) | 二一〇 | 木炭 | 四三〇 |

メガホン

小計 一七〇
一九九〇

四月五日

トラック隊旅ヒ（鹿島渡シ）

注射薬（ビタミン）

バス代

学生旅ヒ（吉奈へ）

一五二〇〇
三〇〇
四〇
一〇〇〇
小計 一六五四〇

四月六日

紙

旅ヒ（修善寺に安森弁士迎へ）

飴（弁士用）

木炭

学生の移動ヒ

三〇〇
三五〇
二〇〇
四三〇
八二五
小計 二一〇五

四月七日

便箋

切手

菓子

労務者日当

見舞品（栗田へ）

六〇
一〇
二〇〇
六七五
四〇〇

スポンジ

釘

電球

タバコ

酒と肴（トラック交替人夫へ）

石橋夫人関係ヒ（前山註「立替」を

「関係ヒ」に修正している）

弁士宿泊ヒ（みやこ旅館へ）

新聞記者接待

五五〇
一〇〇
八五
二〇〇
一二五五
一〇〇〇〇
七〇〇〇
二五〇〇
小計 一三〇三五

四月八日

板橋弁士旅ヒ

ガソリン

弁士代

飴

トラック積込みバイブレーター借用ヒ（十一日間）

三三〇〇
一七七七
三〇〇
八〇〇
一六五〇
四八〇
一四五〇

電話料（二三一八番）

注射薬（ビタミン）

党大会ビラ用ゴム印

平林弁士旅ヒ（大仁方面）

ソバ代（トラック交換人夫へ）

米代

| | |
|---------------------|-------|
| 旅ヒ (学生ガ伊東へ) | 一五〇 |
| ブラシ (二ヶ) | 二〇〇 |
| 山中ラジオ店へ | |
| (アンプ代) | 一八三五 |
| (電球代) | 一八五 |
| (トラックコード) | 一五〇 |
| 拡声器借用ヒ | 七〇〇 |
| 原町演説会雜ヒ | 四五〇 |
| 小計 | 一六七四七 |
| 四月九日 | |
| 割箸 | 七〇 |
| 旅ヒ (田村、石島) | 七九〇 |
| 竹ホウキ | 一〇〇 |
| ハガキ | 五〇 |
| 入場券 | 二〇 |
| 紙 | 二〇〇 |
| 原紙 | 一二五 |
| ザラ紙 | 一五〇 |
| 地図 (沼津) | 四〇 |
| 菓子代 | 二〇〇 |
| 旅ヒ (緒方弁士熱海へ) | 二〇〇 |
| 旅ヒ (阿部、田村、小池、吉村弁士へ) | 三九五〇 |
| 武士へ (弁士付添い) | 二二五〇 |

| | |
|----------------------------|-------|
| 小柳へ (弁士付添い) | 二二五〇 |
| 旅ヒ (斎藤、大島、田村弁士熱海へ) | 一五七〇 |
| 緒方弁士用の薬品代 | 三〇〇 |
| 旅ヒ (緒方弁士ら熱海へ) | 一七一〇 |
| かつらぎ館へ (長岡温泉) 阿部、吉村、田村弁士宿泊 | 一一二〇 |
| 伊代野旅館へ (伊東) | 二二一五〇 |
| ハイヤー代 (深夜、土肥へ往復) | 九〇〇〇 |
| 印刷料 (ハガキ二万枚) | 六五〇〇 |
| 勝俣忠幸渡シ | 五〇〇〇 |
| 労務者日当 | 二〇〇〇 |
| バッテリー使用料 (トラック) | 一四六〇〇 |
| 小計 | 八三三四五 |
| 四月十日 | |
| 印鑑 (一ヶ) | 八〇 |
| 糊ハケ | 二〇〇 |
| 弁当代 | 二〇〇 |
| 茶、インキ、石鹼 | 三〇〇 |
| 木炭 | 三六〇 |
| 菓子代 | 二〇〇 |
| 画鋏 | 一二〇 |
| 夕食 (トラック隊) | 一三〇〇 |
| 電報料 (緒方弁士) | 一〇〇 |

ガソリン代
自動車部品
紙(モゾウ)
旅ヒ(平林弁士)
ソバ代

小計
七〇〇
一五〇
五〇〇
三〇〇
八四〇
五三三〇

四月十一日

注射薬(ビタミン)
タバコ(平林弁士用)
新聞記者接待ヒ
トラック運転転免許可証
会議所会場借用ヒ
新聞記者接待ヒ
ソバ
旅ヒ(八尋弁士)
紙(モゾウ)
トラック隊雑ヒ

五五〇
四六〇
二〇〇
一三〇
一二〇〇
三〇〇
四〇〇
五二〇
二五〇
四〇〇
小計
四四一〇

四月十二日

ビール
ソバ
糊

三六〇
五〇〇
一四〇

紙(モゾウ)

タバコ(弁士用)
旅ヒ(事務所員静岡へ)
タバコ(トラック隊へ)
醍醐渡シ
ハイヤー(斎藤弁士、富士へ)
ビラ新聞折込み料
茶

五〇〇
二四〇
二〇〇
四二〇
五〇〇
一四〇〇
三〇〇〇

墨汁

キャラコ

ピン

党大会用胸章

旅ヒ(大原弁士)

ガソリン(党大会用)

文具ヒ

小計
一〇〇〇〇

四月十三日

旅ヒ(事務所員静岡へ)
紙(モゾウ)
米(三斗)
旅ヒ(二名東京へ)
弁当(石橋先生他七名)
トラック交換ヒ

一二〇〇
四〇〇
四三五〇
一三〇〇
二四〇〇
三八八〇

| | |
|--------------------------|-------|
| 菓子代 | 三〇〇 |
| 労務者日当 | 三二五〇 |
| 旅ヒ (岩渕弁士) | 五二〇 |
| トラック隊旅ヒ | 九〇〇〇 |
| 酒 | 九八〇 |
| 雑ヒ | 二〇〇 |
| 小計 | 二七七八〇 |
| 四月十三日 (前山註 十三日を分割記載している) | |
| 弁当代 (直井弁士へ) | 一五〇 |
| 速達 | 三五 |
| 拡声器二台借料 | 二五〇〇 |
| 文具ヒ | 四一〇 |
| 旅ヒ (直井、前田、宮崎弁士) | 一一四〇 |
| 夕食 (運転手) | 三三〇 |
| 米 (二斗) | 二九〇〇 |
| 注射薬 | 四五〇 |
| 入場券 | 五〇 |
| ビール、タバコ (緒方弁士) | 七三〇 |
| 旅ヒ (前田弁士へ) | 五二〇 |
| 菓子代 | 二〇〇 |
| 旅ヒ (藤森、松岡弁士) | 一〇四〇 |
| 注射薬 | 六八〇 |
| ハイヤー (平林弁士) | 九六〇 |

| | |
|----------------------|--------|
| 旅ヒ (事務所員、稲取へ) | 五〇〇 |
| 弁士宿泊ヒ (みやこ旅館) | 九〇〇〇 |
| 弁士宿泊ヒ (甲州屋) | 三四〇〇〇 |
| トラック隊員合宿所ヒ (中川旅館) | 二三一一四 |
| 渡辺渡シ (仮払) 党大会関係のもの | 一〇〇〇〇 |
| 小計 | 八八七〇九 |
| 四月十四日 | |
| ハイヤー (事務所) | 三五八一〇 |
| 鹿島渡シ | 六〇〇〇 |
| 弁士宿泊ヒ (浅田屋) | 五〇〇〇〇 |
| 旅ヒ及び接待ヒ (八尋、宮崎、奥谷記者) | 九〇〇〇 |
| 新聞社へ (沼日、民報へ) | 四〇〇〇 |
| 小計 | 一〇四八一〇 |
| 四月十五日 | |
| 菓子代 | 二〇〇 |
| 新聞広告料 | 三〇〇 |
| 旅ヒ (富士宮へ) | 八〇 |
| 夕食代 | 二五〇 |
| 旅ヒ (板橋弁士ら富士へ) | 九八〇 |
| 旅ヒ (前田弁士ら関係のもの) | 八一〇 |
| 鹿島渡シ (旅ヒ不足金) | 六五〇 |
| 小計 | 三二七〇 |

四月十六日

注射薬（ビタミン）
トラック修理代
宿直員食ヒ及びその他
旅ヒ（弁士、修善寺）
佐藤立替（食ヒ、文具ヒその他）
ソバ

見舞用果物（大昭和へ）
タワシ

トラック隊ソバ

東海電機へ（電気関係ヒ）

旅ヒ（鷹岡町へ自動車で）

生卵（一〇ケ）

茶

トラック隊諸雑ヒ

五七〇

四二二

二五〇

二七〇〇

一六四〇

一〇〇〇

二一五〇

三〇

一二〇〇

二八三五

一八〇〇

一三〇

二〇〇

一〇〇〇

小計一五〇二七

四月十七日

八木渡シ（弁士旅ヒ）

会議所会場心付

電話料

鉛筆その他

新聞購読料

ウドン

四三五五

三〇〇

六〇

一八〇

九五〇

七〇

旅ヒ（岩渕弁士）

注射薬

旅ヒ（谷秘書）

木炭

自動車修繕ヒ

ガソリン

五二〇

三六〇

一一一〇

三六〇

一一五〇

一〇五〇

小計一〇七六五

四月十八日（前山註 選挙戦最終日）

トラック隊合宿所ヒ（中川旅館）

労務者日当及び賞与

（右は廿五名に対しての最終支払い）

トラック借用御礼（大ニ）

弁士宿泊ヒ（伊代野旅館）

新聞広告料（前山註 「社へ」を

「広告料」に修正している）

二八〇二〇

一七七九二五

二〇〇〇〇

四八一八五

三〇〇〇

三〇〇〇

小計二五九一三〇

四月十九日（前山註 投票日）

弁士宿泊ヒ（稲取、金鶏館）

弁士宿泊ヒ（遊仙閣）

弁士宿泊ヒ（松屋）

印刷代

拡声器借料

四三〇〇

二四〇〇

一八一五

一八八〇

一二〇〇

トラック隊夕食ヒ 九〇〇
ソバ 二四〇
小計二九六五五

(前山註 二十日の記載なし)
四月二十一日

ガソリン 三一〇〇
中食(四人) 四〇〇
電話料(一三二八番) 九三八二
電話料(三三〇一番) 七五〇六
タクシー(沼タク事務所用) 七二九三〇
バッテリー充電ヒ及び借料 一六一四〇
タクシー(事務所用、交通) 一八七三〇
弁土宿泊ヒ(さかや) 一五〇〇
労務者(臨時)謝礼 五〇〇〇
布団代 六二七〇
会議ヒ(丸新ソバ店) 一一〇〇〇
小計二五一八五六
(累計) 一二〇七二五一

以上は、三月二十日より四月二十一日までの日別支出明細であるが、その前後にも未記載の支出があった。即ち次のものである。

供託金 一〇〇〇〇〇
事務所借用ヒ 三〇〇〇〇
ガソリン 九七〇〇
清算ヒ(法定費用を作るためのもの) 三〇〇〇
小計一四二七〇〇
日別累計一二〇七二五一
支出総計一三四九八五一

右には東京での弁土謝礼等或は各地区の連絡事務所費は含まれていない。

私見

この百三十万余円の選挙実費は、決して多いとは考へられない。しかしながらそれはいはゆる陣笠代議士の場合に云うべき言葉であって、石橋先生の如きいはゆる「大物」にあつては全く耻づかしい支出と云はねばならないだらう。この程度の支出は、むしろ選挙区の同志が醸金シ合い、石橋先生に『使つて貰う』べきであつて、それにもかかはらず、この何倍かの巨額のヤミ費用が東京から選挙区に密送されることは甚だ遺憾である。

前にも記したように、この百三十万余円の支出は、『使い放題』の感がある。派手な選挙に毎回なる所以であるが、もしこれに節約のブレーキをかけるならば、費用の減少は極めて容易であらう。恐らく二割は期待できよう。(但シ、これは各地区における連絡事務所費と相殺されよう、この費用は大体三十万円止りである)